

# 【C部門】 認知症について語ろ う！「みんなの語り 場」

助成団体  
認定NPO法人健康と病いの語りディペッ  
クス・ジャパン



be Orange



4日間の停電でトイレがわからなくなり、未明に家を出て転倒、寝たきりになってしまった



認知症の姑（85歳）を介護

DIPEx-Japan

2020/XX/XX

NPO法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン

# 活動の様子

## | 活動内容

昨秋相次いで風水害に見舞われた千葉県長生郡長南町の人々とともに、災害から認知症の人を守れるまちづくりを考える「語り場」を3月に開催する予定だったが、新型コロナウィルス感染拡大のため、2月末から現地での活動ができなくなっている。

2月半ばまでに長南町の認知症の方と介護者に被災当時どのように過ごされていたかについてのビデオインタビュー8件を実施し、現在はそれを編集して「語り場」でのディスカッションを活性化するためのトリガーフィルム（きっかけ作りの映像）を作成している。

語り場はあくまでも延期であり、関係者とは状況が落ち着いたら実施することで合意している。

# | 活動実施による効果

## (地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

当初3月22日に語り場を実施する予定で、関係各方面（消防、警察、町の福祉課、総務課、地域包括支援センター他）に調整をおこなっていたので、その時点で災害弱者としての認知症の人へのサポートについて一定の意識喚起はできたと思うが、現時点では実際の語り場が開催できていないので、効果についての評価は困難である。

しかし、インタビューでは、「長期の停電は認知症の方に大きなストレスとなって症状の悪化を引き起こす可能性がある」「避難所では帰宅願望が強まることがあるが、グループホームの方々は利用者・スタッフがいつもと同じ顔触れであることが大事」「障害のある認知症の高齢者を連れての避難はタイミングを計るのが難しい」「必ずしも公設の指定避難所ではなく身近な避難場所を前もって考えておくことが大切」といったことが明らかになっており、少なくともこのインタビューデータを今後の長南町の災害対策の参考史料として残すことができることは一つの成果と考える。

## | 助成金の使用実績

助成額：500,000円

旅費	76,482円
郵送費	6,060円
会議費	10,344円
消耗品費、雑費	7,294円
インタビュー謝金	18,000円
撮影スタッフ人件費	80,000円
逐語録作成費	159,230円
合計	357,410円

※2019年度未実施活動内容に関する今後の助成金使用予定額：155,000円